

2009 年度受託研究概要報告

「ストーリーまんがによる商店街の活性化について」 ～顧客を呼び込むストーリーまんが活用術～

研究メンバー

大塚英志 先端芸術学部メディア表現学科教授
赤本尚美 先端芸術学部メディア表現学科 4 年生

委託者

芦屋市商工会

研究概要

「ストーリーまんが」を地域振興のツールとして用いたという依頼に対して、キャラクター等を用いた先行事例の問題点を分析し、キャラクター依存型の地域振興からいかに住民の意識を変え、その上で、ツールとして「ストーリーまんが」が使用可能かについて考察するとともに提言を行う。また、赤本尚美によってツール用のキャラクターパネル、コミック等の制作を行う。

研究成果

活性化しようとする地域そのものを「ストーリー」としてどう把握し、発信していくかが大切であり、打出商店街の場合は村上春樹ゆかりの作中に登場する公園や、大正モダニズムの街並み、あるいは住宅街に忽然とある古墳など、「ストーリー」を喚起する要素が多い。まず地域の人々がそのような「物語」を読み取り、「ストーリー」として発信しようとすることを試みるなら、初めて「ストーリーまんが」というツールは有効である。



図2 芦屋四姉妹物語—打出商店街編— 表紙



図1 芦屋四姉妹物語—打出編—スタンプラリーMAP



図3 芦屋四姉妹物語のワンシーン